



# 青少年赤十字 JRCふくしま

編集発行  
青少年赤十字  
福島県指導者協議会  
日本赤十字社福島県支部  
〒960-1197  
福島市永井川字北原田17  
TEL024(545)7998



## あいさつ



青少年赤十字福島県指導者協議会  
会長 福井 一明

日頃より、青少年赤十字活動について温かいご指導ご支援をいただいておりますことに、心より感謝と御礼を申し上げます。東日本大震災からの復興元年として、今年度は当初予定された本会の事業がほぼ計画通り実施されており、ますことにつきまして、関係各位のご尽力に、改めて敬意を表する次第です。

特に、震災と原発事故で甚大な被害を被った双葉地区におかれましては、大熊町立熊町小学校からは、学校が臨時休業状態であるにもかかわらず、青少年赤十字活動の意義を深く受け止め、青少年赤十字への加盟登録の申し込みがありました。非常時であればこそ、なおさら青少年赤十字の活動が、子どもたちの成長に大きく寄与することを認識されていることと、その熱意に

感謝いたしました。青少年赤十字の活動が、復興の一助となることを願っております。

また、青少年赤十字賛助奉仕団からは、この震災以降団員数の減少が懸念されたが、実際は、逆に団員数が増加したとのお話を承りました。青少年赤十字活動を支えていただいている皆様方の熱い思いを改めて感じさせられました。福島県の指導者講習会や研修会・学校公開には、はるばる避難先から駆けつけてくださった団員の方がいらしたことを忘れてはなりません。

十月五日には、第三十六回青少年赤十字福島県指導者研修会・学校公開が、矢祭町立矢祭中学校を会場に開催されました。昨年度中止を余儀なくされた公開でしたが、矢祭中学校、下関河内小学校をはじめ関係各位のご尽力により無

事開催され、成功裏に終了できましたこと、この場をお借りして、御礼かたがた御報告申し上げます。

順不同になりますが、五月八日には、全国赤十字大会が開催されました。名誉総裁の皇后様ご臨席の下、国見町立県北中学校生徒会長の赤井畑君が、青少年赤十字活動の一環として取り組んだ、東日本大震災後の活動を発表し、参加者に大きな感動と、深い感銘を与えました。福島県の青少年赤十字活動のすばらしさが全国に発信された出来事でした。

ここで、忘れてならないのは、県北中学校生徒のすばらしい活動が生まれた陰には、子どもたちの「小さな気付き」をしっかりと受け止め「考え実行する」態度に育て上げた先生方の存在です。日常の何気ない「気付き」を認め励まし続ける教師の姿勢が、子どもたちの実践を後押しするのであって、何もせず子どもたちが自分たちで「気付き、考え、実行する」ことはあり得ないことを、赤井畑君の発表から教えられた

気がします。  
以上、今年度の活動のいくつかを振り返ってみました。震災からの復興のなかで、青少年赤十字の理念や目標が着

## 平成二十四年度青少年赤十字 福島県指導者協議会総会開催

東日本大震災の影響で開催が遅れた昨年と異なり今年度は例年通り春に開催出来ました。五月十日(木)に日赤県支部で行われました。福島県教育委員会教育長杉昭重様(代理 義務教育課佐川正人様)、福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長小島喜一様のご来賓と県内各地区並びに高校の県と各地区の会長が出席されました。

実に浸透し、成果を上げています。このことに力を得て、前を向いて進んでいきたいと思えます。

に引き続き、加盟の促進、活動の推進充実、情報交換推進、指導者の育成、関係機関との連携が挙げられました。次いで役員改選が行われ、昨年に引き続き福井一明会長が選出されたのを始め左記の役員の方々が選出されました。



総会の一コマ

### 平成24年度 青少年赤十字 福島県指導者協議会役員名簿

役職名	氏名	学校名
会長	福井 一明	福島市立福島第一小学校
副会長	今野 隆	郡山市立白岩小学校
副会長	松本 敬之	西会津町立西会津小学校
副会長	菅田 秀隆	福島県立須賀川高等学校
監事	渡辺 惣吾	本宮市立白岩小学校
監事	高橋 誠	相馬市立飯豊小学校
監事	若林 吉男	福島県立福島北高等学校

# 平成二十四年度の 主な行事予定

(十月以降)

- 青少年赤十字福島県指導者  
研修会・学校公開並びに第  
一ブロック青少年赤十字研  
究会  
期日 十月五日(金)  
場所 矢祭町矢祭中学校  
(下関河内小学校は矢祭中  
で発表)
- 福島県高等学校青少年赤  
字連絡協議会秋季総会  
期日 十一月十五日(木)  
十六日(金)  
場所 郡山市磐梯熱海温泉  
● 青少年赤十字福島県指導者  
協議会第二回会長会  
期日 十一月二十一日(水)  
場所 日赤県支部
- 青少年赤十字国際交流事業  
Mt. Fuji  
期日 十一月二十三日(金)  
二十六日(月)  
場所 静岡県御殿場市  
Y M C A 東山荘  
(とうざんそう)
- 青少年赤十字作品募集優秀  
作品表彰式  
期日 十一月二十九日(木)  
場所 日赤県支部
- 指導主事対象青少年赤十字  
研究会  
期日 一月十六日(水)  
十八日(金)  
場所 神奈川県葉山町  
湘南国際村センター
- 青少年赤十字スタディーセ  
ンター  
期日 三月二十三日(土)  
二十八日(木)  
場所 山梨県山中湖村東照館

## 平成二十四年度 青少年赤十字指導者講習会

今年度の講習会は八月六日(月)～八日(水)の二泊三日、下記の日程で国立磐梯青少年交流の家で開催されました。今年度は小学校から二十五人、中学校から九人、高校から二人、計三十六人での開催

となりました。一校で複数の参加者は無く各地区で指導的立場で活動している三十六校の先生方の講習会でした。ほとんどが初めて参加された先生方で、特色あるプログラムで「先見」や「フィール



ドワーク」、班毎の「ボランタリー・サービス」などトレセンならではのプログラムが用意されていました。最初の頃は指示のない生活、掲示板を見る生活に何をどのようにと戸惑いと不満の表情は隠しきれないようでした。それが日を追うごとに青少年赤十字の理念を理解していただいたようで、三日間の生活をおして、多くのことに「気づき」「考え」「実行」されていく姿が見られました。

### 主な内容と講師 (敬称略)

- 各班のホームルーム担当  
一班 川村 卓也  
(福島市立福島第二小学校)  
二班 佐藤 実  
(福島市立庭坂小学校)

### 8月6日から8日 日程表

	8月6日(月)	8月7日(火)	8月8日(水)
6:15		起床 VS 活動	起床 VS 活動
7:00		朝のつどい	朝のつどい
7:20		朝食	朝食
9:00			
9:30	受付	実技講習	実践報告
10:00	開会式	救急法短期講習	「研究推進校の実践」
10:30	オリエンテーション		
	講義 「赤十字と 青少年赤十字」	講話 「学校教育と 青少年赤十字」	ワークショップ 「JRC 活動を 広めよう」
12:00	昼食	昼食	昼食
13:00	ワークショップ 「JRC 活動って?」	実技 「フィールドワーク」	まとめ 閉会式
14:30	実技演習		
16:00	「レクリエーションと その指導」	フィールドワークの 反省	
17:00	ホーム・ルーム		
17:20	ホーム・ルーム		
19:00	タベのつどい	タベのつどい	
20:00	夕食	夕食	
21:30	ホーム・ルーム	ホーム・ルーム	
22:00	交流会	交流会	
23:30	班長会	班長会	
	入浴	入浴	
	消灯・就寝		

- 講義  
「赤十字と青少年赤十字」  
日赤県支部 鶴沼 秀雅
- ワークショップ  
「JRC 活動って?」  
Action を起すために  
田村 享子
- 研修  
「レクリエーションとその指導」  
福島県レクリエーション協会  
佐藤 喜也
- 救急法短期講習  
日本赤十字救急法指導員  
古川 盛也・石田 政幸・  
大浪 政輝・(田村 享子)
- 講義  
「学校教育と  
青少年赤十字について」  
福島県教育庁県南教育事務  
所指導主事 大竹 宏之

- 各班 和田 有司  
(伊達市立梁川小学校)
- 四班 箱崎 仁  
(いわき市立小名浜第三小学校)
- 五班 古川 盛也  
(前青少年赤十字指導講師)
- 六班 田村 享子  
(福島県磐城第一高等学校)

○フィールドワーク

【青少年赤十字賛助奉仕団】

藤田 伸朔・酒井 紹雄・大浪 政輝・古川 盛也

【指導スタッフ】

川村 卓也・佐藤 実・和田 有司・箱崎 仁・田村 亨子

【日赤県支部】

石田 政幸・日色沙織里

○実践広告

「研究推進校の実践」

会津美里町立新鶴小学校

安積三枝子

会津美里町立新鶴中学校

鈴木 智子

矢祭町立下関河内小学校

森合 耕一

矢祭町立矢祭中学校

久保木 学

○ワークショップ

「JRC活動を広めよう」

(各HR担当)



指導者講習会に参加して

自分から変わり

行動しよう

石川郡平田村立西山小学校

小沼 満夫

「ちょっと、待って。何をすればいいんだ。」

わたしが、この研修会に参加し真つ先に思ったことでした。戸惑い、迷いからスタートした研修でした。それは、今まで、研修会へ数多く参加してきましたが、このような体験をする研修会は初めてだったからです。なんと受け

身的な研修をしてきたことか、反省させられました。そして、今までのすべての行動に対して、消極的だったと感じました。講師の先生の話を読んだ聴く。言われたことだけをやらばいい。そんな、自分自身がいたことを気づかせてくれた研修会でした。研修生は班ごとに、ボラタリー・サービス(V・S)というところで、活動内容が示されます。そうなんです。「示される」のです。割り当てではありません。あくまでも例示。実際の活動は、班員が「気づき、考え、実行する」

ことなのです。この感覚に自分なるまでは、なかなか大変でした。しかし、自分の「思い」をそのまま行動に移せばいいんだという感覚になってくると、いつの間にか進んで行動している自分が、そこにいたのです。わたし達三班のV・Sは、「講話、実技研修の世話、司会進行、資料の配布等」でした。研修が進むにつれ、講義の前には部屋の下見、準備物がないか確認など、自分たちでこれはと思うことを行動していたのでした。自分なりに、充実した三日間の研修を行うことができました。

しかし、ちょっとした不安も感じてきました。もしか、子ども達の様々な「気づき」の場面を奪っていたのでは、教師が子ども達に声をかけ、自分が先頭を切って走っていたのでは。見た目は、教師と先生と一緒に行動しほほえましい感じがします。しかし、それは、子どもが「動かなければ」と感じ、自ら行動していたのか疑問に思いました。この研修により、「わたし」自身が変わることに気づきました。今度は子ども達にも変わる「きっかけ」「チャンス」を作ってやることだと思えます。「自分ができるとから、Actionを起こしてみませんか。」講師の先生にいつて頂いた一言です。「気づいた」そして、「考えた」そこで終わりではない。大切なのは、そこから「実行すること」。

最後に、同じ活動班の三班だった、塩生先生、金成先生、山崎先生、大室先生、内池先生。HR担当の和田先生。そして、JRCのスタッフの皆さん。また、このような研修に参加させてくださった多くの方々はこの場をお借りして、お礼を述べさせていただきます。本当に皆さん、お疲れ様でした。そして、ありがとうございます。暑い夏に、あつい研修をし、そして、とてもあつい思い出ができたこと、とても嬉しく思います。

「気づくことから

始まるJRC」

人・活動・精神

いわき市立永崎小学校

教諭 橋本 昌美

「一秒も無駄にすることなく過ごした三日間だったよね。」

最終日に、参加したメンバーからこんな言葉が出てき

ました。この三日間の充実ぶりが伺える言葉です。三日間の間にレクリエーション講習、救急法短期講習、フィールドワーク、JRC活動のCMづくりと様々な活動に挑戦し、その間にJRCの理念や活動について学びました。「気づき・考え・実行する」というJRCの精神のもとに多くの活動を実践することで、「先を見通して行動すること」「常にアンテナを高く保つこと」「様々な状況や立場を考慮して意見を出すこと」「アイディアは寄り良いものに変えながら実現してゆくこと」を体験しながら学ぶことができました。これらの充実したプログラムのために、何日もかけて準備して下さったスタッフの皆様感謝申し上げます。

とめて下さったのは伊藤先生と五十嵐先生でした。いつもみずみずしいアイディアを提案し、明るい雰囲気を作って下さった菊池先生。班員の溢れ出るアイディアを記録し、重要な部分は必ず確認して下さっていた石本先生。集録作成全体を見通し、優しく見守り、みんなの背中を押してくれた安積先生。そして困った時の石井頼みとでも言うのでしょうか、芸達者で俳句作りにコマージュ作りの企画構成にと八面六臂の活躍をして下さった石井先生。そして私たち講習生の活動を寸暇を惜しんで記録して下さい、最終日には一本の映画のようにまとめて下さった田村先生。素晴らしい先生方の個性が集まって、班対抗フィールドワークでは優勝メダルまでいただくことができました。

資料 青少年赤十字活動の用語の中から

**\*先見(せんけん)**  
将来起こるかもしれない万が一の事態のために、日頃から備えて行動することを意識付ける「先見」。子どもたちが自己の行動管理、危険予知など、先を見越した行動を主体的にとれるようになるため、トレセンの中に「先見の時間」を設定し、その意識付けを重視しています。

**\*生徒の気づきを待つ「待ちの姿勢」**  
教員には本人の気づきを待つ姿勢が求められます。子ども自身が問題、ニーズを発見し、納得することにより、その後の取り組みのモチベーションの向上が期待されます。そのため気づきを促すような側面支援を重視しています。

**\*ホームルーム**  
ホームルームの時間では、各参加者の考えや反省、疑問などを自由に出し合い、必要に応じて指導者が助言します。一日の反省にとどまらず、プログラムの中の疑問点や青少年赤十字に関する疑問点などについても話し合い、各自の理解を深めます。

## 全国赤十字大会における 実践活動発表内容

●日 時 / 平成二十四年五月六日  
●場 所 / 明治神宮会館  
●発表者 / 国見町立東北中学校 三年 赤井焯 諄君

こんにちは。福島県伊達郡国見町立東北中学校で生徒会長をしています赤井焯です。私たちの学校は平成二十一年度から平成二十二年度に福島県青少年赤十字研究推進校に指定されました。当初は、「何をいけばいいのか?」「青少年赤十字活動って何なのか?」というレベルからのスタートでしたが、みんなで周囲のニーズに「気づき」、何をすべきか「考え」そして「実行する」経験を多くしました。この二年間があったからこそ、震災のつらい日々も、周囲をしっかりと見て、「自分たちにできること」を前向きに考え、活動できたと思っています。

震災直後は、生きること、自分たちの身を守ることに精一杯でした。しかし、私たちと同じ中学生が、自分自身も被災しているにもかかわらず、ボランティア活動に取り組み姿を目にし、刺激を受けました。また、学校が再開した直後の全校集会で、校長先生から「自分たちにできることを一人ひとりで考えてほしい」という言葉もいただきました。これらことから、生徒会で立ち上がり、みんなのために学校全体で何かできることはないかと、真剣に話し合いました。まず行ったのが、原子力発電所の事故収束に向け、命がけで作業にあたっている方々へ感謝のメッセージを送ることでした。学級ごとにメッセージをまとめ、県災害対策本部、消防署、警察署、自衛隊、原子力発電所などへ届けました。

また一年生の総合的な学習の時間では、「私の三・一一」と題し、被災者への取材等を行いました。町の実態を確認し、ボランティアにつなげました。例えば、仮設住宅には冷房機器がないことを知り、避難されている方々のために団扇を作成し贈呈したり、少しでも楽しい時間を過ごしていただきたいと思い、文化祭に招待しました。加えて、ひとり暮らしのお年寄りが良い新年を迎えられるよう、全校で「絵手紙」を作成して届けたり、町の各所の清掃活動を行ったりしました。

今回、取り組みを発表するといふこのような機会をいただき、改めて私達の活動を振り返ってみると、その活動内



容に私達自身も驚いていま  
す。なぜ、私たちがここまで  
活動できたのか？それはそれ  
ぞれの活動に対して、皆様か  
らの感謝の笑顔や手紙など温  
かい声をいただいたからだと思  
っています。復興に向け命  
がけで作業されている方々か  
ら感謝の手紙、涙の電話、  
地域の方々からも多くの手紙  
やあたたかい電話をいただき  
ました。私達の取り組みがテ  
レビで紹介されたのを見た関  
東にお住まいの方からも、わ  
ざわざ電話や手紙をいただき  
ました。私達の町、福島県、  
国のために、「何かしたい」  
という気持ちが報われた。自

分たちのしたことが多くの  
方々の役に立っている、多く  
の方々に元気を与えていると  
いう実感とともに、自信とな  
り、それがまた次の活動意欲  
につながっていききました。  
私たちは、将来の福島を、  
いえ、日本を背負っていか  
なければならぬ世代です。復  
旧、復興に向けてやらなけれ  
ばいけないことがまだまだた  
くさん残っています。これか  
ら、自分たちで出来ること  
がある限り、中学生として、  
みんなのためにできることを  
考え、実行していきたいと思  
います。

## 青少年赤十字TC指導者養成 講習会参加者報告

●期 日／五月三十一日(木)～六月三日(日)  
●会 場／YMCA東山荘(静岡県御殿場市)  
●発表者／日本赤十字社 福島県支部 青少年赤十字指導講師  
金子久仁子

この講習会の目的は青少年  
赤十字メンバーを対象に行う  
「青少年赤十字リーダーシッ  
プ・トレーニングセンターの  
企画や運営にあたる指導者」  
を養成することです。講習会  
に参加した全国の小・中・高

校の教員等がリーダーシッ  
プ・トレーニングセンター(T  
C)と同じプログラムを体験  
し、今後に生かすのを狙い  
ています。参加資格の一つ  
に各支部、各ブロック主催の  
青少年赤十字指導者講習会を

修了している者とあります  
が、四月に青少年赤十字指導  
員となった私はどの講習会も  
終了していませんにもかかわ  
らず、これから行われる県TC、  
各地区のTCのために参加  
しなければと思いついで参  
加しました。この講習会で学  
んだことや感じたことを報告  
いたします。

### 1. 生活運営

ガイドブック等にも掲載さ  
れている目標(①指示の無い  
生活、②注意深い生活、③自  
分の考えを持つ生活、④自分  
にチャレンジする生活、⑤他  
のために自分を生かす生活)  
を実践します。一つ一つの行  
動がこの目標を合致している  
か意識する生活です。意識す  
る事が次の「先見」、「V・S」  
と結びついてゆくことになり  
ます。

### 2. 先見とボランティア・サービス(V・S)

ここで言う「先見」は先を  
見る、考えるから一歩踏み込  
んで将来に備えた行動や集団  
生活の中の自己管理の意識  
付けです。良い行動と言われ  
ることを思いつくことは誰で  
もあるでしょうが赤十字精神  
(人道)を土台とした意識し  
た生活や行動がV・Sに繋が

ります。教員や指導者はここ  
に子ども達の「気づき」、「考  
え」、「実行する」と言うJR  
Cの態度目標と結びつくよう  
待ちの姿勢が求められている  
ことを感じました。文章的に  
は理解できませんが実際の場  
面での「先見」と「V・S」、「待  
ちの姿勢」を理解できたかは  
この報告を書いている現在も  
不明です。今後の私自身の課  
題とも思っています。

### 3. ホームルーム

生活運営の単位としての位  
置づけと個人の考え、反省な  
ど自由に話し合え受講者の交  
流が深まると同時にHRTか  
らの指導も有り、研鑽、理解  
の場になりました。最後の研  
修のワークシヨップでは同じ  
HRの方々からアドバイスや  
パワーをいただきました。

### 4. フィールドワーク(野外活動)

HR単位でチェックポイン  
トを巡って行く活動で、より  
HRの結束が固まり、楽しめ  
る活動でした。課題が赤十字  
精神を自然と取り入れられる  
工夫がしてあり、子どもから  
私たち大人まで出来る活動に  
なっています。余談ですが  
フィールドワークの指導ス  
タッフは福島県の学法福島高

校JRC顧問の根本先生で  
す。根本先生は青少年赤十字  
活動の事例発表もなされ福島  
県現状を全国の方々に広めて  
くれました。

青少年赤十字の研修を何一  
つ受けずに参加した私の全  
国の講習会が高いハードルで  
した。飛び越えたと言うこと  
ではなくハードルを倒しながら  
前に進まなければと言う気  
持ちだけが先行して気がしま  
す。その後行われた県TC、  
各地区TC、指導者講習会に  
参加し青少年赤十字の素晴ら  
しさと、奥深さを実感してい  
ます。全国の講習会で出会え  
て仲間とスタッフに感謝しな  
がら他の先生方にも来年度以  
降参加なさることをお勧めし  
たいと思っています。



## 平成二十四年度夏季リーダーシップ トレーニングセンター報告

福島県高等学校青少年赤十字 連絡協議会会長

須賀川高校 目黒 万里

今回のリーダーシップ・トレーニングセンター(以下TCとする)は「原点に戻る」がテーマでしたので、プログラムの内容や進め方が昨年・一昨年のトレセンとは違う、本来のTCの形になりました。例えば、開講式・閉講式などでは、事前に役員などで誓いの言葉や赤十字の歌などの役割を分担しますが、今回は、本当の意味での「ボランティア」で、参加者の自主性に任されていたのです。いつもの気持ちで参加した私たちは、TC開始当初はお互いどうしていいかとまどいがありました。一人ひとりのリーダーとしての自覚に任される研修が始まったのだと実感した瞬間でもありました。

これまで毎年県や地区のJRC活動に参加し、ある種の「慣れ」がありました。しかし、今回は初めて参加したような緊張感と高揚感を感じました。TCに参加するに当たって最も重要視されるのは、ボランティアサービ

(V.S.)、先見、号令のない生活であり、それに必要な掲示板を注意しておけばいいとわかっていても、本当に誰からも指示されずに掲示場を見て、自分の判断で行動するのはいかに難しいかを、この二日間の中で体験する場面が何度もありました。

しかし、振り返ってみると、そんな時に参加者同士が励まし合って、充実したTCができたように思います。最初は何となくぎこちない会話が続き、緊張感がただようホームルームもありました。しかし、講義やグループワークなどの活動をしてゆく中で、信頼感や安心感が生まれ、徐々にリーダーとしての自覚が芽生えて来たように思います。

私自身が今回のTCで学んだことは、決められた時間内で目的を達成する方法です。JRCの大会ではグループワーク必ずありますが、話し合いがうまく進まず、時間内

で思うように意見をまとめることができないことがあります。何をどうすれば目標に到達するのか整理する力ができたと感じています。二日目のフィールドワークも、課題を解決するために協力してゴールを目指しました。各グループでそれぞれ問題もありましたが納得できる結果でした。

今回の県TCを通して、私たちは新たな絆をつくり、それぞれの地区に戻りました。そのメンバーに負けないよう残りの高校生活の中でのJRC活動はもちろん、今後もさまざまな場面で今回のTCの経験を生かさなければなら



いと考えています。最後に、今回のTCを実施するにあたって指導していただいた先生方や日赤の関係者

## 平成二十四年度夏季リーダーシップ トレーニングセンターの実施にあたって

福島県高等学校青少年赤十字 指導者協議会事務局

須賀川高校 吾妻 久

今年度リーダーシップ・トレーニングセンター(以下TCとする)を実施するに当たり、事務局として最も配慮したのはプログラムの充実でした。昨年と一昨年は全国高校総合文化祭が福島県で開催されるのに伴い、TCをはじめその他の活動もおのずとその参加を前提とした内容ならざるを得ない状況にありました。しかし、今年度はあらためてTCの原点に戻ることが意識したプログラム作りが必要になりました。そこで最も重要な役割を果たしたのがTCプログラムの作成および実施のためのスタッフ会議でした。スタッフの構成は高校JRC活動に長く携わってきた先生方、日赤福島県支部高校JRC担当の金子先生、そして事務局で、TCの実施までに理事会や指導者協議会総会

の方々、そして参加したメンバーにあらためて感謝したいと思います。ありがとうございます。い

のの方々、そして参加したメンバーにあらためて感謝したいと思います。ありがとうございます。

等を含めて三ヶ月で約五回の事前会議を行いました。事務局を担当する私は高校JRC活動に携わってまだ数年でしたので、今回のTCの成功は、このスタッフ会議の先生方の協力なくしてはありえなかったと実感しています。

プログラムの作成を開始するに当たり、TCの目的や意義、参加するJRCのメンバーにリーダーとしての資質をどのようにして高めさせればいいのか。また、日常の学校生活のような一方向的な指導ではなく、メンバーの気付きを促すにはどうしたらいいのか。また、その方法として活動内容と時間や場所は適切なのかなどについて、限られた時間の中で綿密な計画を徐々に練り上げていきました。

TCの二日間の中でも、プログラムを進めていく中で、

第 1 日 目 (7 月 13 日 (金))

時 間	内 容
9:20	郡山駅発
10:00~	受付
10:30~	アイスブレイク・開講式オリエンテーション
11:00~	ホームルーム (11:50写真撮影)
12:00~	昼食・着替え
13:00~	赤十字概論
13:45~	JRC のリーダー (先見・VS を含む)
15:20~	【選択講座 1】 1. 救急法 2. レクリエーション
17:00~	タベのつどい
17:20~	ホームルーム
17:40~	夕食
19:00~	入浴
20:00~	WS・FW・「詩・100文字提案」
20:40~	【選択講座 2】 1. 災害ボランティア 2. 国際交流 3. JRC 活動の活性化
22:00~	ホームルーム
22:40~	就寝準備

講師や指導を務めていただいたスタッフの先生方の JRC メンバーに託す思いが伝わる場面が何度もあり、高校生メンバーたちもその思いに込めるかのように黙々とプログラムに取り組む姿が見られました。本来であれば三日間必要な TC を二日間で実施するので、メンバーもスタッフも息をつく間もないほど密度の濃い時間を過ごすことになりま

した。単にリーダーを育成するという TC の目的を達成するためだけではなく、同世代とのメンバーとの友情や、JRC 活動に懸ける思いを同じくするメンバーとスタッフの絆、活動を通して生まれたお互いを真摯に思いやる気持ちなど厳しさの中にも優しさやぬくもりを育んだ TC だったのではないかと思います。真のリーダーとは何か、そ

の答えを参加したメンバー一人ひとりの心の中に確実に芽生えさせることができた二日間でした。その陰には企画・運営に尽力していただいた先生方の御助力が不可欠だったことは紛れもない事実であり、関係した各校の先生方及び日赤関係の方々には事務局として心より感謝申し上げます。

第 2 日 目 (7 月 14 日 (土))

時 間	内 容
7:00~	朝のつどい
7:15~	朝食
8:40~	フィールドワーク
11:00~	講評
11:30~	昼食・着替え
12:45~	WS・感想文
13:20~	ホームルーム
13:50~	閉講式

24 年度 各地区トレセン、指導者研修会・講習会 開催状況

トレーニングセンター	地 区	月 日	会 場	参加人数 概数	主な内容
小・中	福島・伊達・安達	7月31日(火)	福島一小	23	レクリエーション、救急法、オリエンテーション
	郡山	8月3日(金)	サンサングリーン湖南 他	80	講話、フィールドワーク
	西白河	8月22日(水)	表郷小	32	救急法、炊き出し
	北会津・会津若松	8月2日(木)、3日(金)	磐梯青少年交流の家	44	救急法、炊き出し、フィールドワーク
	耶麻	8月1日(水)	西会津小	30	救急法、レクリエーション
	両沼	8月1日(水)	会津自然の家	106	講話、AED 講習、UFO ゴルフ
	県高校	7月13日(金)、14日(土)	郡山市青少年会館	56	講義、レク、救急法、FW、GW
高校	県北	8月1日(水)、2日(木)	支部、福島県青少年会館	31	講義、レク、炊き出し、講演、GW
	県南	7月25日(水)、26日(木)	郡山市青少年会館	22	講演、レク、炊き出し、GW、講義
	会津	8月1日(水)	県支部	21	講演、レク、グループワーク
	いわき	8月9日(木)	昌平高校	42	救急法、福祉レク、講習

指導者研修会・講習会	地 区	月 日	会 場	参加人数 概数	主な内容					
						福島・安達	7月31日(火)	福島一小	7	講義、救急法、オリエンテーション
						石川	6月11日(月)	たまかわ文化体育館	24	講義、炊き出し
						田村	6月13日(水)	船引公民館	44	救急法
						西白河	6月26日(火)	白河一小	31	講義、AED 講習、炊き出し
						東白川	6月14日(木)	高城小	24	講義、レクリエーション
						北会津・会津若松	7月4日(水)	磐梯青少年交流の家	22	炊き出し、レクリエーション
両沼	8月1日(水)	会津自然の家	24	講義、救急法						



平成二十四年度 青少年赤十字郡山地区リーダーシップトレーニングセンター感想文集より  
青少年赤十字指導者協議会 郡山地区会長 今野 隆

# トレセン・復活！ みんなでピース！



この度、今年度のトレセンに参加した皆さんの感想を讀ませていただき、震災後初のトレセンを日帰りではありましたが、実施してよかったです。とあらためて強く感じました。

特に、初めて会った同士がはじめは緊張しながらも、うち解け合い、心を通じ合う経験ができたこと、そしてほとんどの皆さんが「いい思い出になった」「参加してよかった」「来年もぜひ来たい」という感想を持ってくれたことが私たち運営に携わった者として、とてもうれしいことでした。

「JRCとは何か？」ということも、三つの実践目標の「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」、そして態度目標の「気づき・考え・実行する」についても、そのような交流の中で、少しでも知るきっかけになったのではないのでしょうか。これからも知識としてだけでなく、日頃の学校生活、家庭生活の中で家族や仲間、社会や他人との関

係の中で活かしてくれることを期待します。

震災によってとぎれてしまったトレセンですが、皆さんの参加によって、また明るい未来に向けて力強くスタートすることができました。今回、参加された皆さんは震災後初の参加者であります。各校でJRC活動のリーダーとして仲間を広げ、共に手を取り合って今できることを「気づき、考え、実行」していきましょう。

この会の趣旨にご理解していただき、お子さんを参加させていただいた保護者の皆様にも感謝申し上げます。

さらに、この度のトレセンに指導協力者として参加していただいた十六名の先生方。この感想文の中に宝石のようにちりばめられた子どもたちの喜びの声、充実の声は先生方のご努力のおかげです。



フィールドワーク開始

子どもたちと心を開いて熱心に関わって下さった先生方に心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、物心両面で支えてくれた日本赤十字福島県支部ならびに郡山市地区有功会の皆様、県中地区青少年赤十字賛助奉仕団、事務局校（小山田小）はじめ事務局の先生方にお礼申し上げます。

## 小学生の感想

小原田小五年

瀧田 雄大君

ぼくは、初めてリーダーシップトレーニングセンターに参加しました。お兄ちゃんが五年生の時参加して「楽しかった」と言っていたので参加しました。ですが、三年生の三月に大きなじしんがあつて参加することができませんでした。残念でした。それから一年が過ぎてリーダーシップトレーニングセンターに今日参加できたので本当にうれしかったです。今日の日程で一番楽しかったのはネイチャージームでした。楽しかったです。

## 中学生の感想

守山中二年

香西 寛奈さん

私は初めてトレセンに参加しました。赤十字、トレセンとは何かと聞いてとても歴史があるのだと知りました。行く時は、赤十字なんてよくわからないものですが、話を聞いてすごく深いなあと思いました。班活動の旗づくりはとても新鮮でみんなと一緒に

に考えて色を塗ったりと、とても楽しかったです。先生たちが一生懸命考えてくれたゲームは、班の絆をより深いものにしてくれました。なにより湖南の大自然の中でゲームをすることができたのは本当にうれしかったです。今回の活動で「世界」について一層関心を深めました。誰もけがをせず、安全に終わりました。トレセンに関わった皆様、本当にありがとうございます。この活動をして本当に良かったです。



## あとがき



東日本大震災から一年以上が経ち各地区で猛暑の中トレニングセンターが実施されました。原発事故での見えない恐怖からはまだ立ち直ってはいませんが児童生徒のため教職員の先生方の努力のおかげで明るい子どもたちの声を聞くことができました。またそれが先生方を勇気づけているのも確かです。